陳　情　文　書　表

（令和８年12月１日）

受理番号・受理年月日及び件名	陳情第258号（８．11．18 ） 2026年４月に実施された市バスの減便・廃止を元に戻し、2027年４月に実施予定のさらなる「路線見直し案」の見直しを求める陳情
陳情の要旨	１．減便された２・16・32・36・92系統を元に戻すこと。 ２．廃止された急行106系統・急行18系統を元に戻すこと。 ３．100系統・103系統の廃止停留所を元に戻すこと。 ４．利用者の実態・声を広く聞き2027年４月からの「路線見直し案」を撤回すること。
陳情者の住所及び氏名	神戸市灘区 奥　村　礼　子
送付委員会	都市交通委員会

2026年　11　月　18　日

神戸市会議長　様

（住所）　神戸市灘区
（氏名）　奥村　礼子

2026年4月に実施された市バスの減便・廃止を元に戻し
2027年4月に実施予定のさらなる「路線見直し案」の見直しを求める陳情

【陳情趣旨】

2026年4月のダイヤ改正で大規模な市バス減便を行割れました。市バス全体の実に23%もの減便です。灘区では、元々本数の少ない３２系統、黒字路線である２・１６・３６・９２系統が大幅に減便され、急行１０６・急行１８系統が廃止されました。また昨年には１００・１０３系統の停留所も大幅に廃止されています。

この大幅減便により、JR六甲道・阪急六甲の停留所では、学生の登校時には長蛇の列ができ、積み残しも出て「１・２本待たないと乗れない」という状態も続いています。便数が減ったため、混雑がひどくなり、特に移動手段がバスしかないという高齢の方が、急坂・急カーブが続く中、手すりやポールを持って「すしづめ」のなか転倒の危険がますます増えているとの鵯甲地域にお住まいの方からの切実な声も聞きました。これ以上混雑すれば乗れる便がなくなってしまうと高齢者やベビーカー利用者から声が上がっています。

さらに来年4月からの見直し案では、２９・１８・１０２・１００系統の統合・分離・廃止が出され。水道筋商店街へつながる路線の廃止も計画されています。

日々の通勤・通学、病院通い、買い物に欠かせないバス路線です。私たち有志が駅やバス停、スーパーの前や地域を回って集めている「ストップ、市バス路線廃止減便！」の署名には多くの方が賛同し、現在灘区だけでも２，２６８筆の署名が集まっています。運転士の不足など運営に大変なこともあるでしょうが、市民の足である市バスを神戸市として守っていく役割を果たしてほしいと思います。

【陳情事項】

１．減便された２・１６・３２・３６・９２系統を元に戻してください
２．廃止された急行１０６系統・急行１８系統を元に戻してください
３．１００系統・１０３系統の廃止停留所を元に戻してください
４．利用者の実態・声を広く聞き、２０２７年４月からの「路線見直し案」を撤回してください